

「活動の概要と研究成果」

NO.J2410

活動題目:ベトナム戦争下の北ベトナムの実態に関するメディア史的考察—日本電波ニュース社のフィルム映像を中心に

所属:東京大学大学院学際情報学府 博士課程

氏名:朱子奇

本研究は、初めてテレビカメラの下で進められた戦争であるベトナム戦争における日本のテレビ報道に焦点を当て、西側で唯一、「敵側」である北ベトナムを継続的に取材した映像メディア・日本電波ニュース社が、戦時下の北ベトナムをいかに記録し、伝えようとしたのかを明らかにすることを目的とする。

テレビ・アーカイブの整備は近年ようやく始まりつつあるが、ベトナム戦争に関する映像は、ごく一部を除き、依然としてほとんど視聴できない。そのため、テレビにおけるベトナム戦争報道の研究は限られている。一方、日本テレビの『ベトナム海兵大隊戦記』放送中止事件、『ハノイ 田英夫の証言』をきっかけとする田英夫キャスターの降板、さらにはTBS闘争など、ベトナム戦争報道は当時の世論だけでなく、テレビ・ジャーナリズムそのものにも大きな影響を与えた。そこで本研究はまず、日本電波ニュース社のフィルム映像に焦点を当て、戦時下の北ベトナムがいかに記録されてきたのかを明らかにし、それがテレビ・ジャーナリズムに与えた影響を検討する。

本研究では、日本とベトナムの両国で調査および資料収集を行った。日本では、放送ライブラリーや立命館大学国際平和ミュージアムなどで、ベトナム戦争関連の映画、テレビ番組、フィルム映像、さらに放送関係者による取材時の手紙や手記などを収集した。ベトナムでは、ハノイおよびホーチミンシティの博物館や資料館を見学し、戦争の実態に関する資料を収集した。こうした資料に基づき、日本電波ニュース社が撮影したフィルムを分析し、その取材の特徴を明らかにした。その成果の一部は、2025年6月8日に立命館大学で開催された日本メディア学会春季大会において、「ベトナム戦争において北ベトナムはどう記録されたのか—日本電波ニュース社の取材フィルムに関する研究」というタイトルで報告した。

今後の課題としては、実際に放送されたテレビニュースや番組を収集し、テレビというフィルターを通して北ベトナムがどのように報道されたのかを検証することが求められる。